

日 時 平成20年4月13日午前12時48分キックオフ（霧雨）

会 場 綾錦原運動公園

相 手 J A

結 果 1-2（0-2、1-0）

得点者 黒田

内 容 光明大いにあり

20年度のリーグ戦が開幕。今年度は、間違っって昇格してしまった1部での戦いである。容易に予想される厳しい戦いに向け、監督兼マネージャーを初めて民間から登用（新福青果高妻氏）し、細かい戦術を日高コーチが担当する新体制である。なお、開会式では、杉田理事のテンポの良い司会や日浦氏の来賓挨拶（ギャグは無し）など、円滑に進められた。

初戦の相手は宿敵のJ A。昨年11月のカップ戦では1-5で大敗を喫している嫌な相手。しかも、リーグ戦では、黒田の得点王を阻まれている。J Aにはテクニックがありお手上げ状態の選手が2人いるが、無理に奪おうとせず相手からできるだけボールを切り離すよう事前に確認した。なお、選手交代は以前と異なり、試合を通じて5名まで。フェニックス得意の人海戦術が使えないのが苦しいところであった。日高コーチからは、縦横のポジショニングのバランスを考えて動き、各自が近くの選手をフォローしながら楽しくプレーするよう指示があった。

というわけで、試合開始。前半開始早々、フェニックスのいつもの悪い癖が出る。体が動いておらず、いきなり右サイドを破られ、ドフリーの相手FWヘグラウンダーのセンタリング。しかしこれを相手FWがスルーし事無きを得た。J Aは、前に若い選手を集め、フェニックスDFラインの裏へのスルーパスを狙ってくるも、DF陣の体を張った守りで相手に自由にプレーさせない。一方、フェニックスの攻撃陣は、左サイドからの崩しを中心に応戦するも、滑るピッチにも手こずり、なかなか決定的なチャンスを作れなかった。

そして、10分過ぎ、J AのFWに中央を抜け出され、あっさりと先制を許した。しかし、失点経験豊富なDF陣は、いつもの展開になり逆に固さが取れ、その後は一進一退の攻防が続いた。そして、このまま後半へ突入か？と思われた前半終了間際、またもJ AのFWに中央を抜け出され、これを起点に最後は14番に見事なミドルシュートを決められ、これで0-2。直後にホイッスルが鳴り、前半終了となった。

後半は、藤田、工藤を投入。一方、J Aも交代メンバーを使ってきた。気付けば小雨が降り始め、ピッチがより滑りやすくなった。後半も、開始から五分五分の展開が続くもJ Aのメンバー交代の影響もあり、フェニックスは徐々に相手陣内に押し込み、前半と異なりシュートまでいける回数が格段に増えてきた。

そして迎えた後半15分、藤田の左からのクロスを、相手DFのマークを外したエース黒田がヘッドで合わせ1点差に迫るゴールを決めた。これで1-2。ここからは、イケイケドンドンの状態になり、J Aを一方的に攻めたて、後半20分の児玉（広）の投入で更に攻撃的布陣に変更した。

しかし、、、DFラインを抜け出した緒方のシュートはポストに阻まれ、右からのセンタリングにフリーの藤田がヘッドで合わせるも僅かに枠の外に。黒田が抜け出してキーパーと1

対1になるも決めきれず、また、左サイドを抜け出したHT児玉のシュートも僅かに枠の外へ。数回あったコーナーキックもなかなか決めきれず、結局このままタイムアップ、惜しい敗戦となった。

今回は、決めるべきところをきっちり決めたJAに軍配が上がりました。しかし、最後までペースを掴みきれずに惨敗した昨年の開幕戦に比べれば、今回は各自が自分の役割を果たし、内容は上々だと思われます。2失点は、DF陣の連携不足に起因するものでしたが、守備は、今年度から2人のセンターバックを横並びに変更しDFラインを高めに保つなど模索中の段階。今後徐々に改善されると思われます。しかも、リーグ戦はまだ始まったばかりです。今後もリーグ戦優勝を目指して!、、、と欲張らず、残留くらいを目標に精進しましょう。

#### 参加者

<先発>

FW (黒田、渡邊)

MF (緒方、渡部、児玉好、赤野)

DF (谷口、三井、久保野、久保)

GK (谷之木)

<交代>

FW (藤田) 後半開始 (渡邊に代わって出場)

DF (工藤) 後半開始 (久保に代わって出場)

DF (児玉広) 後半20分 (赤野に代わって出場)

谷口がDFからMF (ボランチ)、

児玉好がMF (ボランチ) からFWへ

藤田がFWから右MFへ

審判 主審：橋谷、副審：渡邊、赤野 監督等 日高、高妻

応援 稲用、鳥原、中園、越智